

フードバンクがつかつかつ

生活困窮世帯へ食料品を提供する富谷市のNPO法人ふうどばんく東北AGA IN(あがいん)が在庫不足に苦慮している。提供要請が相次ぐ生活保護費の支給日前は他団体から融通してもらい、何とかしのいでいるのが現状。特におかずの缶詰やレトルト食品、赤ちゃん用の粉ミルクが慢性的に足りず、市民や企業に支援を呼び掛けている。

富谷のNPO法人 慢性的在庫不足 困った

ふうどばんく東北には企業から、災害用備蓄の入れ替えに伴い食料品が不定期に寄贈されることが多い。このためアルファ米や水は比較的集まりやすい。
ただ、定期的に食料品を寄付してくれる企業は1社だけ。生活保護費支給日前には支援要請が集中し、在庫不足となることもしばしばだ。今月の名古屋市のNPOに、レトルト食品のカレー300食とスープ4000食を送ってもらった。
ふうどばんく東北は、2008年設立された東北初のフードバンク団体。16年度は約800件、延べ約20000人に食料品を提供した。生活困窮者だけでなく子ども食堂や

支援先は増加の一途 「食料品提供を」

学習支援グループ、東日本大地震の被災者が集まるお茶飲み会にも食料品を届け、支援先は増加する一方だという。
ホームレスに炊き出しを行っている仙台市青葉区のNPO法人萌友スタッフの芳賀隆太郎さんは「小さな組織で、財政状況は常に厳しい。ふうどばんく東北からの食料品提供はとてもありがたい」と語る。
ふうどばんく東北は余剰になった食料品を募る「フードドライブ」を24、25日の午前10時半〜午後5時に青葉区の勾当台公園で開催する。スタッフの小椋亘さんは「家庭で眠っている食品や店頭に出せない商品があれば寄付してほしい」と話す。
受け付けるのは賞味期限ま

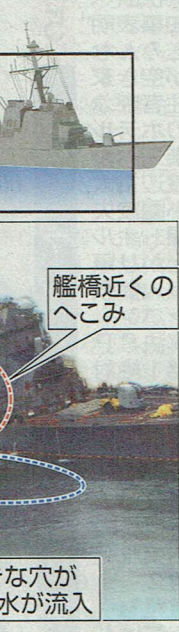


在庫を調べるふうどばんく東北のスタッフ。生活困窮世帯に提供する食料品が不足している

で1カ月以上ある食料品や飲料。郵送も可能で、送料はふうどばんく東北が負担する。
近郊であればスタッフが出向く。連絡先はふうどばんく東北0222(779)7150。

不明な人全遺体収容か

「と述べた。
3管は、東京・大井埠頭」



に停泊しているコンテナ船の乗組員らから引き続き事
情聴取し、業務上過失往来危険容疑を視野に捜査している。運輸安全委員会の船舶事故調査官も、事故当時に見張りをしていた船員や船長の聞き取りを実施した。

夏至は夏野菜と助
る。海保はイージス艦とコンテナ船の進路や見張りの状況などを詳しく調べる。
事故は17日午前1時半ごろ、伊豆半島にある石廊崎の南東約20キロ沖で発生。フ